

『明日の給食なんだろう』

広島県呉市立広小学校 五年一組 男子 相原 潤

「じゅんちゃん。明日の給食は何。」

と聞いてきたのは弟。弟は小学一年生、ぼくは五年生だ。ぼくは、五年生なので給食のメニューについては一通り分かるつもりだ。弟は、次の日のこんだての内容をくわしく聞いてくる。ぼくは、できるだけ分かりやすく話してあげる。弟は、

「うわあ。楽しみじゃ。」

と飛び上がったり、

「えっ。それぼく食べられるかねえ。」

と心配したりする。ぼくは、四月から給食こん立てを弟と話したりするのが楽しい。

家族で夕食を食べている時は、その日の給食の話をも弟としていた。サーモンのホイLMを初めて食べた弟は、

「何が入るとんじやろう。つてびつくりしたんよ。でもあけたらサケが入っててすごいおいしかったんよ。」

と言った。ぼくも一年生の時全く同じことを思ったよ。と言おうと思った時、ぼくより先にお母さんが、

「あつ。それ、お母さんもそれ好きだったわあ。あれ、おいしいよね。」
と言った。すると、お父さんが、

「あ。お父さんもそれ好きだったよ。名前は銀紙包みだったけどね。」

と言った。家族みんなで大笑いした。それから、給食の話を家族でいろいろ話した。お父さん、お母さんの子どもころの給食と同じこともたくさんあった。でも、ぼくたちの給食を聞いて、お父さんもお母さんも、メニューが工夫されているとおどろいていた。広島県の郷土料理から、世界の料理まであることには、とくにおどろいていた。

ぼくは、給食は好きなものが多い。二時間目が終わった位からいい香りがしてくる。そのころから、ちようどおなかも減ってくる。友達と、今日の給食何だろう。とか、いいにおいがするねえ。とか、ああ腹へったねえ。と話をする。ぼくは、昨日、弟と一緒に見たこんだてを思い出して、友達に言う。そして、それを喜ぶ友達もいるし、苦手なものだったのか、ええ。と言う友達もいる。そんな話をするのも、すごく楽しい。

ぼくは、学校に行って、勉強もがんばっているけれど、やっぱり給食の時間がすごく楽しい。何だろうとワクワクして、友達と話をしたり、帰って家族と給食の話をしたりするのめすごく楽しい。給食は、こんだての工夫や、味付けの工夫、栄養面でもたくさん工夫がされている。給食当番の時に会おう給食の調理員さんが暑い日も寒い日もぼく達のためにいいねいに作ってくださいているから食べられていることもわすれてはいけない。ぼく達が給食を食べるまでに関わった人や食材に感しやして、これからも楽しみに、おいしくいただきたい。